一般社団法人

日本臨床発達心理士会

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

理事長挨拶

日本臨床発達心理士会は、一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構が認定した臨床発達心理士有資格者によって2003年に設立され、その後、20余年を発達に関する様々な領域で地域に根差した活動を行ってきました。

組織が大きくなってきたことに伴い、日本臨床発達心理士会は2022年11月に独立して一般社団法人として法人登記を行いました。

それ以来，資格認定をする一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構と、認定された有資格者からなる職能団体である一般社団法人日本臨床発達心理士会は、両輪として科学的理論と研究に基づいた発達支援を提供するために活動を進めています。

本会には臨床発達心理士有資格者の大多数に加入していただき、現在の会員は約4000名となりました。

世界を見ればあちこちで紛争は続いており、地球沸騰時代で様々な災害が生じています。この中で人々がどのように生き、発達をしていくのか、今こそ問われています。

私たちは、受精から死までの生涯発達という広い視野をもって人々の発達を支援するものです。発達は子ども達だけの問題ではありません。子どもに関わる大人たちも発達し、高齢者の発達の問題は高齢社会にある私達には喫緊の課題です。したがって、私達の活動分野は多岐にわたります。保健所、児童相談所、クリニック、子育て支援施設、幼稚園・保育所、療育施設、小中高校，特別支援学校・学級・教室，教育センター、学童保育，障害者施設・作業所、高齢者施設、生活支援施設、大学や研究所など、様々な場で活躍しています。臨床発達心理士は，対象者の発達特性や育ちの環境をアセスメントし、関連団体・機関と連携しながら、支援計画を立て支援を行ったり、助言をしています。

本会では臨床発達心理士を含めて発達支援の専門家や一般の人々へ様々な研修の機会や発達支援に役立つ情報を提供しています。

また、臨床発達心理士有資格者には職能を高め実践の交流を進めるための全国大会や実践研究誌、メールマガジンなど様々な機会を提供しています。

「日本臨床発達心理士会」の活動に是非とも理解とご協力のほど，よろしくお願いいたします。

一般社団法人日本臨床発達心理士会
理事長　近藤　清美

「臨床発達心理士」とは

臨床発達心理士とは、発達の臨床に携わる幅広い専門家に開かれた資格です。

臨床発達心理士は、周産期を含み、乳幼児期、学童期、思春期、青年期、老年期と、人の発達・成長・加齢に寄り添い、生涯にわたる「**発達**」を支援します。

「**発達的観点**」から、人を理解し、支援することができる専門的技能を持つところが特徴です。

発達支援とは、子どもが大人になる過程のみならず、一生涯において人がその時々において変化・発展をとげていく全過程であると捉えています。
そのすべてに、一人一人に応じてその時々の発達支援をしていくというのが、臨床発達心理士の役割です。

一般社団法人 日本臨床発達心理士会とは

一般社団法人日本臨床発達心理士会は、一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構によって資格認定された「臨床発達心理士」が集まる職能団体です。

臨床発達心理士は、特に「**発達**」の課題や支援に強い心理資格です。

生態学的・包括的アセスメントを起点として、一人一人の人の一生涯にわたって、そのライフステージに応じた支援が行えるよう、日々研鑽を深めている臨床発達心理士の集まりです。

臨床発達心理士の強み

■支援対象者の発達を見据えた支援

・周産期を含み、乳幼児期、学童期、思春期、青年期～老年期と、生涯にわたる発達を支援できる。

・移行期支援：子どもの進級や卒業、就労、転居、結婚、妊娠・出産、退職など、次のステージでの目標や課題、必要な配慮を見通した支援ができる。

・他職種や市民とつながることができる。人材が多様で連携に熱心である。

・自助できるような発達の支援　（そのための現在の状況や特性の精査・解明・解決法の相談）ができる。

・親子を中心とした関係性改善の支援（子どもだけでなく親も含めた支援）ができる。

・問題が生じて救済の訴えがあってからではなく、予防臨床的な生活方法の提案と講習が可能である。

・具体的な障害として、学習障害を含む発達障害、愛着障害などの理解は豊富で、支援対応を得意とする。

■子どもの心理についての知識に基づいた支援

・子どもの立場や視点に立って、子どもの気持ちの代弁者となれる。

・子どもたちに、学校等で生活しやすい対人関係のあり方を指導できる。

・医療的ケアが必要な子ども等、非定型的な生活環境の子どもの発達臨床支援も今後拡充していく。

臨床発達心理士の活動

　発達支援センター、学校、幼稚園、保育所、発達支援事業所、児童相談所、病院、福祉事業所、保健所、介護施設、自立支援施設、大学等の相談室、等、様々な場所で仕事をしています。
　また、相談・支援施設を自営している会員もあります。また、各職場では、発達心理学に基づく発達支援に強い職員として、各職場のその分野のリーダー的役割を果たしている会員も多く存在しています。
　大学教員である会員は、後進の育成や発達的な研究を日夜進めています。

また、これまで、
・東京都教育委員会からの委託で、特別支援教室への巡回心理士となる

・最高裁判所からの委託で、ハーグ条約に基づく子の引き渡し強制施行に伴って子どもたちの心身の安全・安定を図るための「執行補助者」となる

・「いじめ問題重大事案についての第三者委員会」の委員となる

・スクールカウンセラーとなる(現行規定では「準ずる者」という範疇になりますが)

などの業務も行っています。

日本臨床発達心理士会の活動

　会員は日本全国に、約4000人おり、それぞれ19の支部に所属します。

　日本臨床発達心理士会は、会員の自己研鑽を含めて資格更新のための研修会の開催をしています。
　研修会は、各支部ごとの研修会や、全国研修会、年に１度全国大会も開催しています。

本会の年間活動（事業年度は毎年4月に始まり翌3月に終わる）

■社員(代議員)の確定

4月から6月にかけて全国19支部の支部総会にて代議員(法人法上の社員)を選出。

任期は2年。代議員(社員)総数34名

■社員総会

6月　定時社員総会　理事総数は17名

■理事会

6月　10月　2月頃に定例の理事会開催

■執行部会

代表理事3名(内理事長1名、副理事長2名)、専務理事、常務理事3名の計7名で構成

月1回、定例の執行部会開催

■研修会　(2023年度実績)

全国研修会13回　内e-learning1回

支部主催研修会　50回

実施形態：ZOOMによるライブ配信　26回

現地対面開催　22回

ハイブリッド開催（対面現地開催＋ライブ配信）　11回

サテライト会場あり対面開催　2回

e-learning(6講座)　1回

ライブ配信＋オンデマンド配信　1回

■全国大会

年1回開催。公開講演、企画講演(シンポジウム)、実践研究発表等で1000名程の参加。

■出版

「臨床発達心理実践研究」誌を年1巻、2号を発行

■広報活動

士会ウェブサイトの運営、内部メールマガジン、SNSの活用

■専門委員会

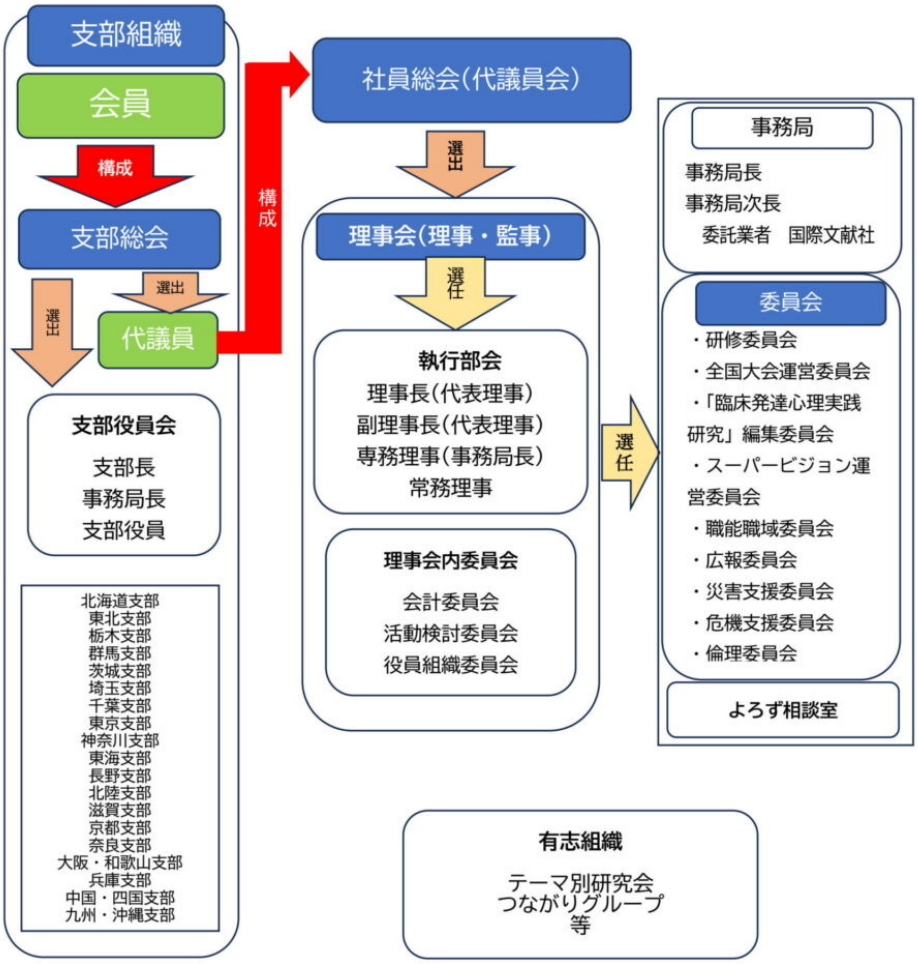
研修委員会、「臨床発達心理実践研究編集委員会」、スーパービジョン運営委員会、全国大会運営委員会、職能職域委員会、広報委員会、災害支援委員会、危機支援委員会、倫理委員会が活動

■公告

士会ウェブサイトにて、収支計算書等を公告　https://jacdp.jp/

日本臨床発達心理士会の組織図

一般社団法人日本臨床発達心理士会



日本臨床発達心理士会　事務局

〒162-0801
東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター
TEL: 03-6824-9398　FAX: 03-5227-8631
E-MAIL：jacdp-post @ as.bunken.co.jp

「臨床発達心理士」は「一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構」の登録商標です。
（登録番号 第6368253号）

ホームページ